

～笑い飯哲夫さんとともに～

桜井市の歴史文化を巡ろう



日本の歴史が息づくまち・桜井市にある遺跡が、世界遺産に登録されようとしています。今回は、「飛鳥・藤原の宮都」の構成資産である山田寺跡を訪れました。

仏教興亡の歴史を今に伝える寺跡

山田寺は、飛鳥時代の有力氏族である蘇我倉山田石川麻呂により創建された仏教寺院です。中世以降に廃仏毀釈*の影響を受け廃寺となりましたが、その伽藍配置（建物の配置）やまつられているものから、山田寺跡は国内での仏教の広がりや、海外からの影響を示す貴重な遺跡として特別史跡に指定されています。昭和時代に行われた発掘調査では、東側の回廊が倒壊した当時の状態で出土しており、法隆寺よりも古い建築様式が確認されました。

※明治時代に起こった、仏教を排斥したり、仏教寺院を破壊・廃止したりする運動。



建てられた時代や場所によって、建物の配置やあがめるものも変わります。仏教にも、はやり廃りや地域色があったんですね。



現代の技術でよみがえる いにしへの姿

スマートフォンアプリ「YAMATO 桜井周遊 AR ガイド」を使うと、文化財について研究員の解説を聞くことができます。さらに、現地に設置されているマーカーを読み取ることで、建造物が目の前に再現されます。よみがえった山田寺を見た哲夫さんは、その完成度に驚いていました。



AR（拡張現実）の山田寺は資料に忠実に再現されているそうです。現地に行った時には必見ですね。



詳細はこちら▲



「山田寺跡」(大字山田)を訪れました。



笑い飯哲夫のちょっとひとこと



山田寺の存在を最初に知ったのは高校日本史の授業で、山田寺仏頭の写真を見た時だったと思います。頭しか残っていない違和感と、それでいて国宝だという存在感に頭の中を刺激され、試験用としては覚えやすい文化財でした。そしてその山田寺自体は現存しないのだと教えられ、心底、頭しかないのでと思いました。

今、山田寺の伽藍は、スマホのテクノロジーで堪能することができます。倒壊していない回廊を歩くこともできます。頭しか残っていなかった仏像の首から下もテクノロジーで再現されているかどうかは、現地に赴いて確かめてください。

山田寺を創建した蘇我倉山田石川麻呂は、大化の改新によって最初の右大臣になった人です。最初の左大臣は、安倍倉梯麻呂という人です。安倍倉梯麻呂は安倍文殊院を創建しました。元祖左右大臣の面影を訪ねる旅も楽しいのではないのでしょうか。

山田寺跡から安倍文殊院まで歩くとどれくらいかかるのかをスマホのテクノロジーで調べてみると、41分で歩けるとのことでした。ちょうどいいくらいの散歩になりそうですね。路線バスを使うと17分です。こちらはとても時短で、ハイテクノロジーですね。ご利用の際は、奈良交通の36系統にご乗車ください。ちなみに36系統のバスは桜井駅南口から出ていて、1日3本ほど走っています。

路線バスを利用してみませんか

10月1日☎から、奈良交通の広域路線バス桜井飛鳥線の実証運行が始まります。新たにバス停「NAFIC 安倍校舎」が設置され、シーズン運行から通年運行になり、土・日曜日、祝日も通年運行されます。